

令和 2 年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input checked="" type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	戦国期拠点城郭の構造と機能に関する研究—近江国観音寺城を事例に—	
研究者所属・氏名	研究代表者：文芸学部文化・歴史学科 新谷和之 共同研究者：	

1. 研究目的・内容

近江六角氏の居城である観音寺城を事例として、戦国時代に拠点的な城郭が築かれたことの歴史的意義を考察する。文献史学・城郭史・民俗学の手法を駆使して城郭の空間構造の把握と機能の解明を目指す。そのために、同時代史料を中心に関連する文献史料を収集・分析し、現地調査及び縄張図の作成を通じて空間構造を把握するとともに、近隣住民からの聞き取り調査で得た伝承や廃城後の土地利用に関する情報も加味して地理データベースを作成する。

2. 研究経過及び成果

観音寺城に関する同時代史料については、概ね収集することができた。それによると、観音寺はもともと西国三十三所の霊場であったが、南北朝期以降に六角氏による軍事利用が断続的にあり、応仁・文明の乱以降、恒常的な軍事拠点となっていく。戦国期には山上での貴人のもてなしや法廷としての機能が確認でき、政庁としての性格を強めていった。石垣普請などの技術史的な側面も垣間見ることができ、戦国期の拠点城郭の形成過程を知る貴重な手がかりとなるだろう。

コロナ禍でフィールドでの活動が大きく制約されるなか、現地踏査を実施し、いくつかの重要な知見を得た。観音寺城は従来から総石垣の城として知られていたが、その石材がどのように調達されたかは明らかでない。今回の踏査により、周辺の尾根筋で採石の痕跡を確認し、織山内で採石がなされたことの裏づけを得た。一方、山内に展開する石垣は積み方が多様であり、明らかに後世に改変を受けたものも含まれる。今後は戦国期以降の変化も視野に入れ、オリジナルな技術や技法を確定させる必要がある。

この点に関わって、織山が近世以降に近隣村落の用益の場となり、相論が頻発していたことは注目される。著名な観音寺城跡の絵図も、こうした相論との関わりで作成されたことを踏まえるならば、そこには近世の人々の城跡に対する認識が投影されている可能性があるといえるだろう。本研究では、これらの後世の史料についても検討を加え、城跡の歴史を重層的に把握することができた。

また、観音寺城を中心とした近江国内の権力秩序についても考察を行った。具体的には、六角氏被官である三雲氏の本拠の景観復元を行い、甲賀郡西部の城館構成のなかでその位置づけを論じた。観音寺城内には被官の屋敷があったことが知られているが、その在城の実態や領主支配との関わりについては不明な点が多い。今後は被官層の動向も踏まえて、拠点形成の意義を探ることが求められる。

さらに、他地域との比較・検討を通じて、観音寺城の特色や武家拠点の普遍性を見出そうと試みた。朝倉氏の居城一乗谷城は、谷部の削平地群と尾根上の曲輪群からなり、一定の居住が可能な構造となっている。谷部に削平地を配置する点は観音寺城との共通性が見出せるが、朝倉氏の場合、山上での居住実態は確認されておらず、その整備は限定的であった。とはいえ、谷部の削平地群は山上での居住に適合的な構造といえ、当該期の山城を探る重要な論点になるだろう。

以上、コロナ禍で調査内容や方法を一部調整する必要が生じたものの、空間構造の移り変わりを歴史的に探るといふ所期の目的は概ね達することができたと考えている。また、国内の他の城館や他地域の大名居城との比較を通じて、武家拠点としての固有性や普遍性を探り、戦国期の拠点的な山城の性格を論じることができた。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

本研究の成果をベースに、観音寺城と六角氏の歴史に関する単著を公表する予定である（2022年頃）。また、畿内・近国の戦国期城館の沿革をまとめ、そのなかで観音寺城の位置づけを改めて論じることにはしたい。

現在、美濃土岐氏の大桑城（岐阜県山県市）の史跡指定に向けた総合的な学術調査に携わっている。そこでは、観音寺城や一乗谷城との比較検討が課題となっていることから、本研究の成果を踏まえて中部大名の拠点の特質を探ってみたい。

本学の民俗学研究所では、越前・若狭を主なフィールドとして、城跡に対する後世の人々の認識について調査・研究を進めている。このアプローチは、城館の歴史を重層的に把握する本研究とも重なることから、今後その成果も含めて、新たな城館研究の方法論を確立していきたい。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）
近畿大学民俗学研究所	雑誌	2020年10月
一乗谷朝倉氏遺跡資料館	雑誌	2021年2月26日
戎光祥出版	著書	2021年6月（予定）
サンライズ出版	著書	2021年5月（予定）
勉誠出版	著書	2021年8月（予定）